

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとば6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:https://ksvk.jp/
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

☆「最近のボラ協ではこんなことをしています」 2~3P

★ボランティアってなんだろう⑥ 4P
「無償性」 はじめちゃん

☆福祉のまちづくりネットワークプロジェクト リレーレポート⑳ 5P
「成人した子の車いすを押す母の視点で」
あゆみの会地域活動部会 吉富 すづ子さん

★MYフレンド
「できる人が・できることを・できる時に」 6P
宮島 洋子さん

☆障害のある人への
北九州市パソコンサポーター養成講座のお知らせ 7P

★お知らせいろいろ 8P



座標軸

幼い頃(半世紀前)の記憶ですが、父の知人が我が家を訪ねて来られた時のことを、先日の朝日新聞「天声人語」(10月16日)を読んでいてふと思い出しました。その方はかなりきつい吃音の方で父と酒を酌み交わしながら和やかに話していたものの、不意に吃音のせいで「世の中の人は認めたくない」と涙しておられました。子ども心にも悲しく感じられ今になってもその時のことは覚えています。

あれから随分と経っていますが、この「吃音」の二文字を目に耳にする事があまりなく、新聞を読みながら「そう言えば…」と思いつき始末でした。10月22日は、吃音(どもり)や言語障害がある人への理解を広げる「国際吃音啓発の日」でした。ご存じの方はおられると思いますが、恥ずかしいことには知りませんでした。

久々に子どもの頃の思い出にひたることができた記事でしたが、欲言加えて頂ければもっとよかったです。と思いました。

(K.O)

最近のボラ協では こんなことをしています。

令和4年もあとわずかになりました。この時期ボラ協は各種イベントへの関わり等が集中していて多忙な日々が続いています。このような時は、自分の関わっている活動に追われて他の活動に関わっている仲間たちの情報を共有する余裕がないものです。

そこで今回は、最近関わった活動のことや最近こんなことを思いながら活動している等の声をランダムに集めてみました。

【障害のある人の

ボランティア活動支援】

常務理事 竹田 英樹

障害のある人がボランティアとして街の点検活動や障害者スポーツの大会運営、障害者団体のイベント手伝いなどに参加する時の支援活動をしています。最近の傾向として精神障害のある人が「医者からリハビリのためにボランティアをしてみては？」と勧められたり、就業支援をしている事業所から「社会復帰のため

【分からないなりに

頑張っています】

副理事長 古賀 由美子

今年度はボラ協が「障害者パソコンサポーター養成・派遣事業」を北九州市から受託して20年になります。ITに決して強くない私がなぜかこの節目の年に「パソコン事業の見直し検討会」を関係者とともに立ち上げて課題の洗い出しとその解決策を検討しています。まず時代のニーズに合致した、そして障害のある人たちに寄り添ったサポーターを養成・派遣できているのかという視点で、関係の当事者団体や専門機関などの皆さんのお話を伺ってきました。また、登録しているサポーターの現状調査や皆さんの声を直接聞くために意見交換会等も実施してきました。

成講座カリキュラムなどを関係者の皆さんとご一緒に検討しているところです。

特に目の前の大きな課題は、87名の登録サポーターのうち実動サポーターの数が限られているということでした。これは長引く新型コロナウイルスの感染対策のために何度も発令された緊急事態宣言によって、事業の停止や条件付きの事業実施の状況が続いた結果、サポーターのモチベーションがさがったり、実技の行えない座学だけのサポーター養成講座が続いたりした結果、自信をもって活動できるサポーターが少なくなっているのです。

この状況を打開すべく、最優先に現在取り組んでいるのは、一人でも実動サポーターの数を増やすということとサポーターのモチベーションをあげるといった二点です。

一点目については、サポーターの皆さんとの意見交換や、新たな養成講座のカリキュラム案等をサポーターの意見も聞きながら一緒に作り上げていくという、事務局とサポーターとの連携体制の強化に取り組みまし



ト依頼者のご協力を得てサポート対応の際に見学者や実習者の同伴を許可いただいて実技講座を兼ねて実施しています。また依頼の多いニーズに対応するためのレベルアップ講座や支援の際の留意ポイントなどを集中的に学ぶ講座等を実施しているところでは、

二点目についてはサポーターの皆さんとの意見交換や、新たな養成講座のカリキュラム案等をサポーターの意見も聞きながら一緒に作り上げていくという、事務局とサポーターとの連携体制の強化に取り組みまし

た。またそのために、サポーターを対象にしたオンライン講座を実施して、サポーター間や事務局との情報の共有を進めています。

今後は来年度の養成講座の内容や新しい運営体制について検討することになつていきます。またこれまで支援してきた依頼者の方たちへのアンケート等も実施して、この事業に対する依頼者からの評価についても伺いたいと思つてい

【つながる可能性 eスポーツ】

事務局次長 鈴木 喜子

「eスポーツ」とは、ビデオゲームやコンピューターゲームなどを使用した競技のことで(賞金が支給される競技もあり)現在、日本においても少しずつ人気が高まつてきています。

障害のある人の社会参加に「eスポーツ」を活用で

きるという情報を聞き、2021年福岡市天神にオープンした西日本最大級のeスポーツ総合施設に関係団体と一緒に見学に行きました。



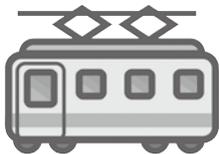
現在、障害関係のeスポーツ団体としては、「一般社団法人日本障がい者eスポーツ協会」や視覚に障害があるプレイヤーたちのチームなども結成されています。eスポーツを通じて障害のある人もない人も年齢や性別、距離や言語というさまざまな壁を越えてコミュニケーションをとることができ、外出が困難な人もリモートで働ける場所が増えてきているそうです。嬉しいですね。

【最近の困りごと】

理事 榎 正寿

私ごとですが、近況を報告します。第一の困りごとは、公共交通の減便と路線廃止です。新型コロナ感染症の拡大を抑えるため、外出規制があり、一時的な減便はやむを得ないと思つて

いましたが、外出規制がなくなつても、客足が戻らないこともあり、減便が残つてしまいました。小倉駅と直方をつないでいた特急バスを使つていましたが、この経路のバス路線が廃止されてしまい、便数が半減しました。特に20時以降のダイヤが減り、ウエルとばたでの会議を終えてから自宅まで帰るのに、2時間近くもかかるようになりました。



直方市の「ユメニティのおがた」へ行く機会がありました。以前は、直方駅へ行く路線バスがありましたので30分以内で行けたのですが、路線廃止に伴いバスで黒崎に出てからJRで直方に移動しなければならず、運賃と時間がともに増えてしまいました困つたものです。

第二には、ICTのスキル不足です。現在会議は、リモート参加していますが、新たな問題がでてきました。パソコンのカメラが映らなくなり、会議に顔出しできず、外付けのカメラを買つてつないでみましたが、リモート途中でフリーズしてしまいます。原因不明です。何度も試しましたが、外付けカメラをつなぐとフリーズするため、声だけの参加になっていきます。対策をしようと様々試みている間に、パソコンも不調で、リモート以外も不調が出てきています。リモート会議用のソフ

トも、teams, googlemet, ZOOMと様々あります。また、それぞれのバージョン更新もあり、追い付いていない状況です。

最近ではZOOMを使うことが多ですが、接続するときにはドキドキです。みなさんの状況はいかがですか？



12月号掲載予定の「地域への社会参加支援事業」の具体的な取り組みのご報告は、次号(3月号)に変更しました。

「ボランティアって
なんだろう？」

【第6回 無償性】

以前、ボランティア研修会に
参加した人から「礼儀を知ら
ない人のボランティア活動は止
める」との発言がありました。

「何かあったのですか、なぜ
ボランティアを止めるのです
か」と尋ねると、車いす使用
者からの依頼で、外出支援の
ボランティア活動を終えて別
れる時に『ありがとう』の二
言をその人は言わなかった』
ということでした。

その人は、障害のある人の
ボランティア活動に行つて、外
出のお手伝いをしてあげると
相手は喜んでくれるだろうと
思い、『ありがとう』の二言ぐら
い言ってくれると思つていたの
かもしれません。

『ありがとう』を言うのは
当たり前。

しかし、『ありがとう』を言
われなかつたからと言つて、ボ
ランティア活動を止めるのは、

ボランティア活動の原則(無償
性)対価や報酬を求めない活
動を理解していかないのではな
いでしょうか。見返りを求めな
いのが、ボランティア活動です。
障害のある人も『ありがとう』
を言えなかつた理由があ
つたのかもしれませんが。

本日は『ありがとう』と言
おうとしていたのかもしれま
せん。



でも、始めてのボランティア
さんで、緊張して言葉が出な
かつたのかもしれませんが。

ボランティア協会が設立さ
れてまもない頃、障害者の自
立生活運動が広がるうとし
ていた時、施設から地域への合
言葉のように、地域で自分の
生きたいように生活したいと
い人たちが出てきました。

ある時、施設に入所してい
た重度の障害がある知人か

ら「今、施設の外泊許可をも
らつて地域のアパートで自立
生活の体験をしている、でも、
明日の朝から昼までの介護者
が見つからないので介護に入っ
てくれないか」と言う連絡で
した。

職場に午前中休みをもらい
アパートに行つてみると、大学
生の介護者が来ていました。

本人から「介護者が見つか
つたので、今日の介護はもうい
いです」と言われ家に帰りま
した。

しかし、帰り道になぜか腹
が立つてきました。介護者が
見つかつたのなら、早く言つて
くれれば、仕事を休まずにす
んだのに、連絡するのが常識
じゃないかと思いました。

そのことを、障害のある人
の支援に関わっている人に相
談すると、あなたが腹をたて
るようなことではない、その人
の今までの人生を考えたこと
がありますか、本人は、子ど
もの時から施設暮らしが長
く、社会との接点もほとんど

ない暮らしを送つてきた。きつ
と、親からも誰からも社会の
マナーと言われることを教え
てもらえなかつたのではないで
すか、もし、あなたが、他人と
交わりながら生活をしていく
上で、これは社会のマナーです
よと思うのであれば、あなた
が教えてあげないといけない。



その人を、そのような生活
にさせているのは、私たち二人
ひとりで作っている今の社会
ですよ、言われました。

それまで、障害のある人た
ちが一人の人として生活が送
れていない原因を作っている社
会に自分もいることに気がつ
かれたできごとでした。

(はじめちゃん)

広告



SKC 会計グループ
税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL. 093-482-5588 / FAX. 093-482-5566
http://www.sakaieiei.co.jp/

株式会社さかい経営センター 株式会社北九州経理代行センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州

福祉のまちづくり
ネットワークプロジェクト

(U)レポート ②③

「成人した子の車いすを
押す母の視点で」

あゆみの会地域活動部会

吉富すゞ子

先日行なわれた桃園プール周辺の点検活動に参加させていただきました。以前にも小倉駅周辺の点検活動に参加したことがありますので、今回が2度目の参加になります。普段何気なく歩く道も「点検する」気持ちで歩いてみると、私たちがどれだけ多くの情報を目から得ているかに気付かされます。歩道の幅、(次の信号までなど)目的物までの距離、歩行者の数など目から得られる情報のほとんどは、情報として意識されることもなく私たちに与えられているはずです。

もしも、そのほとんどが与えられないとしたら、外を歩くことは大きな危険を伴うことに違いありません。目の不自由な方がひとりです外を歩くと、点字ブロックが大きな役割を担っていることは広く知られています。それに加え、車道と歩道を区切る2cmほどの段差も大きな意味があると知りました。



※2cmは1円玉の直径

車道と歩道の境目を知る大事な段差なのだということですが、でもその段差が車いすの動きを阻むときがあります。両者が折り合える高さがある2cmなのか。車で目的地の駐車場に入るとき、車道で中断された歩道を進むとき、その2cmの段差の意味に気付く人はほとんどいないのではないのでしょうか。



途中的、「あ、これは無理!」と『成人した子の車いすを押す母』にもどって感じた箇所がありました。歩道が狭く、駐車場の入り口に車の侵入のための傾斜があるため急な角度で歩道が傾いているところ。しかも短い周期で繰り返されていきます。もうここは車道を行くしかない!

同じ車いすでも手動と電動では違いが出ます。また、介助か自走かによっても違うでしょう。障がいの種類による道は歩く危険の形はこんなに様々なのですから、点検活動にはより多様なハンディのある方々の参加を得られるよう身近な人に声をかけたいと思いました。



*例えは:

車いすを押すお母さんの視点は、ベビーカーを押すお母さんやシルバーカーを押す人と共通しているかもしれません。子育て中に街中の段差や傾斜が気になっている方や最近、お散歩に杖を使用するようになった方やヒールが道路のグレーチングに落ちてしまった方、一緒に点検活動に参加してみませんか? お互いの困りごとを共有しながら、より良い北九州市のまちづくりに参加してみませんか?

広告 明るく・元気に・前向きに! 困ったときはお互い様

業務内容

安全標識作成、資料の電子化、データ処理、印刷各種、各種コピー、大型カラー出力、印刷物(ポスター、記念誌等)の企画・デザイン

私たちは一人ひとりが生き活きと働ける職場づくりを実現します。



三菱ケミカル(株)100%出資特例子会社

化成フロンティアサービス株式会社

〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石1-1

TEL080-2366-5775 FAX093-643-4393

http://www.kfs-mc.co.jp



皆さんは『音訳』という言葉を知っていますか？音訳は本などに書かれた言葉を音声に変換して、視覚に障害のある人に伝えることを言います。

今回のマイフレンドは、音訳グループ山法師(以下…山法師)の代表の宮島さんをご紹介します。

♪音訳のボランティア活動をしよつと思つたきつかけは？

働いていた時に活動を知り、本が好きなので退職したら「活動をしよう！」と思いました。活動を始める前に、大好きな電車で九州の鉄道を制覇するべく、路線図を部屋の壁に貼り乗った路線を塗り始めました。運休や休止の路線を除いて、特急『海

幸山幸』(宮崎市と日南市などの宮崎県南部地域を結ぶ観光列車)以外はほぼ制覇しました。目的地まで各駅停車の列車でゆっくり四季折々の景色を見ながら旅するのが好きです。

活動を始めて十数年経ちました。順番で今年の春から代表をしています。代表になって他団体の会議等に参加し視野が広がりました。

山法師は令和6年で活動を始めて45年になります。



みやじま ようこ 宮島 洋子さん

できる人が できることを できる時に

♪ボランティア少し先輩ですね
ボラ協の竹田さんからは「山法師は老舗だね！」と言って貰いましたよ。

♪音訳の活動は？
市政だよりや障害者団体

の会報、全国版の週刊誌等の音訳もあります。それらの音訳は市内の音訳グループ(9団体)で順番に行っています。登録者が録音した書籍はサピエ※1で管理され必要とする人に提供されます。

♪音訳で大切なことは？
音訳は朗読と違い読み手の感情や解釈は入れず正しいアクセントで読むことが求められます。

デージー図書※2を読むために登録試験があります。

す。様々な活動を通じて『居場所』ができました。活動を長く続けることを目標に頑張っています。

山法師では音訳の他に図書館での読み聞かせやクリスマス会で歌ったり、ペープサート※3をしたりしています。

コロナ禍の前までは視覚支援学校で読み聞かせも行っていました。一言で視覚に障害のあるお子さんと言っても様々で一人ひとりお子さんに合わせて、ただ本を読むだけではなく音の鳴る絵本を使って歌ったり体を動かしたりして一緒に楽しみます。

♪音訳ボランティアの活動をするのに資格は必要ですか？

毎年、西部障害者福祉会館にある北九州市立点字図書館が行っている、音訳のボランティア入門講座を受講後、卒業した人が既存の音訳のグループに所属して研鑽を深めていきます。

♪どのボランティアグループも
同じ悩みを抱えています。



広告募集のご案内

ボランティア協会の活動趣旨に賛同し、広告掲載で応援していただける方を募集しています。

会報「でんしょ鳩」年4回発行 発行部数1700部

広告サイズ：4.5cm×16.5cm A4 1/5サイズ下段 【1回1万円】

※お問い合わせはボランティア協会093-882-6770までお電話ください

それは新しい仲間がそうそう増えないことです。

視覚に障害のある人に情報を伝えるために一緒に活動する仲間を募集しています。



♪ボラ協を知っていましたか？

定例会を東部障害者福祉会館の音楽室で行っていましたが、ボラ協のことは知りませんでした。コロナ禍でお部屋の利用に人数制限ができたため、研修室で活動をするようになり、ペープサートの練習をしている時にボラ協がやっている長期休暇対策事業(オータムスクール)でブレームンの音楽隊をして欲しいと依頼がありました。

♪オータムスクールはいかがでしたか？

4月から練習を始め、打ち合わせを重ねた、ペープサート

のほか、歌を交えた手話や北九州市版「雨ニモ負ケズ」などの朗読なども行いました。子どもたちと一緒に手話でキラキラ星を歌ったのは楽しかったです。

『山法師』ヤマボウシ

花言葉は『友情』だそうです。

いくつになっても活動を通じて居場所や仲間が見つけれられるボランティア活動、皆さんも何か活動に参加してみませんか？

聞き手 船寄 靖子

※1 サビエとは

視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供するネットワークです。メインサービスとしてサビエ図書館があります。

※2 デイジー(DAISY)とは

Digital Accessible Information Systemの略で「アクセシブルな情報システム」と訳されるデジタル録音図書国際標準規格です。

※3 ペープサートとは

紙人形劇のことです。

障害のある人への北九州市パソコンサポーター養成講座

障害があるためにパソコン・スマホの設定や基本操作について支援が必要な方をサポートする障害者パソコンサポーターを養成します。



受講期間/令和5年1月19日(木)~3月2日(木)

おおむね木曜日 10時~15時 全6日間

対象者/パソコンの基礎操作(ワード・エクセル・メール等)ができる方

内容/障害のある人、それぞれの障害に応じた使い方やサポートの方法を学びます。

会場/北九州市立東部障害者福祉会館(戸畑区汐井1-6 ウェルとばた6階)

受講料/無料

定員/8名

締切り/令和4年12月28日(水)まで

※お問い合わせ、お申込みはボランティア協会までご連絡ください。



関心のある方は、お気軽にお問合せください。

パソコンのサポートを通じて、出会いや視野が広がりますよ。



書き損じはがきなど収集品~ご協力をお願い~

この時期は年末に向けて、皆さまも年賀状の準備をされているのではないのでしょうか。

もしも書き損じなどが出ましたら、ボラ協で活用させていただきませんか。

郵便局で手数料を支払えば、ハガキや切手と交換することができますので、ボラ協では会報などをお送りしている通信費として利用しております。

その他、使用済み切手等も収集しておりますので、ご協力をお願いいたします。

※今年も、一年間ボラ協を支えてくださり、ありがとうございました。



ご協力・ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

赤崎 雅仁 佐野 哉夫

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

岡村 正子 入澤千恵子 下田 猛 杉本 和代

竹本 豊 西村 敏子 羽地 良一 宮崎 淳子

株式会社シエイテクト西日本支社

KHファシリテック株式会社

新日本非破壊検査株式会社 八幡西区役所保護課

○バザー品

大曲千代子 鹿子嶋初美 喜多 一男 北川 妙子

公文真理亜 永井 久子 松尾 清美 宮島 洋子

香典返しご寄付

当会副理事長の古賀由美子様よりお母様のご逝去に際し、香典返しをご寄付いただきました。

お母様の古賀ミドリ様は、当会発足当初より賛助会員として会員拡大運動などにご協力いただいた方です。

いただきました寄付金は、障害のある人の社会参加、支援活動費として古賀様のご厚意に沿うよう有意義に活用させていただきます。

御礼申し上げますとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

協会カレンダー

12月

3日(土) 障害福祉団体連絡協議会街頭啓発キャンペーン

6日(火) 沢見市民センター福祉講演会①(古賀)

7日(水) 北九州市立大学福祉講演会(竹田)

10日(土) 第二回NPO・ボランティアフォーラム参加(古賀)

15日(木) 会報第237号発行

第19回北九州市小学生車いすバスケットボール大会

16日(金) 令和4年度北九州チャンピオンズカップ

17日(土) 国際車いすバスケットボール大会(協力事業)

22日(木) 障害者の余暇支援者連絡会事務局会議

障害福祉団体連絡協議会常任委員会

28日(水) 仕事納め

1月

4日(水) 仕事始め

11日(水) 常任委員会

14日(土) 沢見市民センター福祉講演会②(古賀)

18日(水) 令和4年度後期「北九州市民カレッジ」講座開始 (毎週水曜日 計5回)

19日(木) パソコンサポーター養成講座開始 (毎週木曜日 計6回)

2月

10日(金) 北九州市福祉有償運送運営協議会(古賀)

3月

8日(水) 常任委員会

15日(水) 会報238号発行

